新潟港、直江津港を経由した貿易動向

ERINA 経済交流部長
安達祐司

ERINA REPORT（PLUS）No. 149（2019年8月）（以下 ER+No. 149）における拙稿「財務省貿易統計等から見た新潟県の対ロシア貿易の状況」で、新潟港、直江津港及び富山県港湾を経由した対ロシア貿易の動向について検証を行ったところだが、本稿においては、財務省貿易統計等を基に、新潟港、直江津港を経由した新潟県の貿易全体の動向を検証する。検証に際しては、ER+No. 149の拙稿と同様、金額については百万円単位に換算するとともに、シェアの計算や表・グラフによる数値化を行った。

1．2015～2019年の輸出入額

1－1．日本全体の状況

2015年から2019年の日本全体の輸出入額推移を図1に示す。2019年の輸出額は約76兆9317億円で対前年比マイナス5.5%、輸入額も約78兆5995億円で対前年比マイナス5.0%、輸出入とも若干減少している。

1－2．新潟港、直江津港の状況

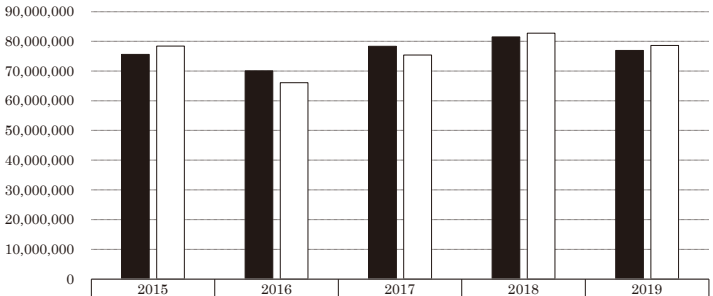
2015年から2019年の新潟港及び直江津港の輸出入額の推移を図2、図3に示す。

2019年の新潟港の輸出額は約1030億円で、対前年比マイナス15%、輸入額は約5186億円で対前年比マイナス3.3%と、輸出の減少幅が大きくなっている。

2019年の直江津港の輸出額は約439億円で、対前年比マイナス5%、輸入額は約1936億円で対前年比マイナス1.8%と、輸出入とも若干減少している。

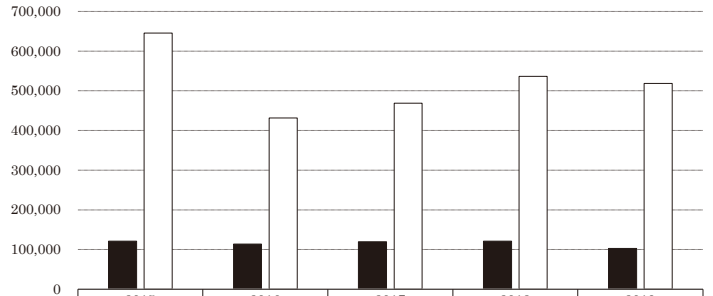
また、2019年値による新潟港の全国シェアは、輸出で0.13%、輸入で0.66%、輸出入合計で0.40%となっている。なお、国土交通省が財務省貿易統計を基に作成した「港湾別貿易額ランキング（2018年）」[1]によると、新潟港は全国120港湾のうち31位、直江津港は48位に位置付けられている。

図1　日本全体の輸出入額の推移（単位：百万円）



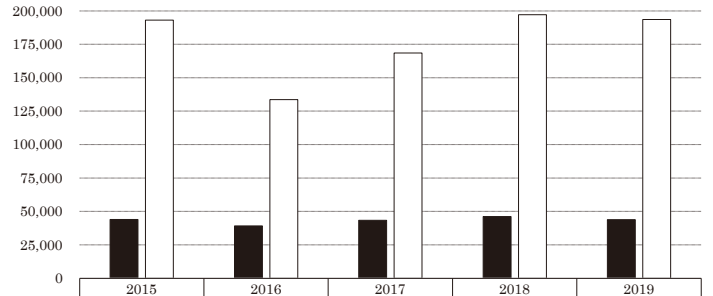
	2015	2016	2017	2018	2019
■輸出額	75,613,929	70,035,770	78,286,457	81,478,753	76,931,665
□輸入額	78,405,536	66,041,974	75,379,231	82,703,304	78,599,510

図2　新潟港の輸出入額の推移（単位：百万円）



	2015	2016	2017	2018	2019
■輸出額	121,379	113,944	119,472	121,041	103,006
□輸入額	645,517	431,393	468,553	536,218	518,589

図3　直江津港の輸出入額の推移（単位：百万円）



	2015	2016	2017	2018	2019
■輸出額	43,990	39,173	43,433	46,219	43,889
□輸入額	193,134	133,647	168,432	197,179	193,579

[1] 国土交通省ホームページの統計情報: https://www.mlit.go.jp/statistics/details/port_list.html。

2. 2018年の新潟港、直江津港の輸出入の状況

次に、2018年の新潟港、直江津港の輸出入の状況について、相手国や主な貨物などを検証する。なお、ER+No.149の拙稿で、両港の輸入における太宗貨物であるLNGについては既に検証済みであることから、本稿においては、両港のLNGを含む鉱物性燃料全体の輸入概況について触れ、これらを除く輸入貨物について詳細な検証を行うこととする。

図4　2018年の新潟港における地理圏別輸出先シェア

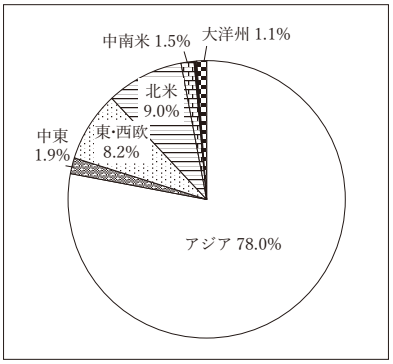


表1　2018年新潟港輸出先上位10カ国・地域（単位：百万円）

順位	国・地域	金　額
1	中華人民共和国	26,510
2	大韓民国	25,997
3	アメリカ合衆国	10,361
4	台湾	10,356
5	ベトナム	5,708
6	フィリピン	5,051
7	タイ	4,668
8	香港	4,469
9	インド	3,738
10	マレーシア	3,350

2－1. 新潟港

(1) 輸出

2018年の新潟港の輸出額は、1210億4100万円で、相手国の大まかな地理圏別割合を図4で示す。図4の通り、アジア向けが全体の8割近くを占め（約943億7900万円）、次に北米が9%（約109億3400万円）、東・西欧[2]が8%（約98億9600万円）と続いている。

次に、2018年の輸出における上位10カ国・地域を表1に示す。表1の通り3位の米国以外は全てアジア諸国・地域が上位を占めている。

新潟港を経由した輸出の傾向を把握するため、表1のうち上位5カ国・地域向けの主な輸出貨物を検証する。

①中華人民共和国

表2に示す通り、中国向け輸出品目は多岐に渡るが、全体の5割近くを化学製品が占めており、中でもプラスチックがその6割と最大品目となっている。次に多いのは原料別製品の紙類及び同製品となっている。

②大韓民国

表3に示す通り、韓国向け輸出においても化学製品が全体の4割を超え、最大の輸出品目となっている。また、原料別製品のうち金属製品が多く、その主な構成品は工具類や刃物、家庭用品等であり、新潟県産品と推測される。

③アメリカ合衆国（表4）

米国向け輸出については、機械類及び輸送用機器と化学製品で全体の75%

表2　2018年中国向け主な輸出品（単位：百万円）

概況品名(注)	金　額	割合(%)
飲料及びたばこ	1	0.0
原材料	3,110	11.7
内、パルプ及び古紙	1,749	
化学製品	12,804	48.3
内、有機・無機化合物	3,077	
プラスチック	7,875	
原料別製品	5,824	22.0
内、紙類及び同製品	4,359	
金属製品	934	
機械類及び輸送用機器	3,564	13.5
内、一般機械	2,886	
電気機器	645	
雑製品	747	2.8
内、精密機器類	309	
特殊取扱品	460	1.7
合　計	26,510	100.0

注：「概況品」とは、いくつかの統計品目をまとめて、一般的な名称を付したもの。概況品の下段は主な品目。

表3　2018年韓国向け主な輸出品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合(%)
食料品及び動物	284	1.1
飲料及びたばこ	442	1.7
原材料	3,646	14.0
内、金属鉱及びくず	3,169	
動植物性油脂	7	0.0
化学製品	11,250	43.3
内、有機・無機化合物	7,045	
プラスチック	1,480	
原料別製品	4,941	19.0
内、鉄鋼	1,814	
金属製品	1,830	
機械類及び輸送用機器	4,494	17.3
内、一般機械	3,766	
電気機器	672	
雑製品	632	2.4
内、精密機器類	234	
特殊取扱品	301	1.2
合　計	25,997	100.0

[2] 財務省貿易統計では、旧ソ連邦構成国及び東欧諸国を「中東欧・ロシア等」、それ以外の諸国を「西欧」との地理圏に分類しているが、本稿では、まとめて「東・西欧」と表記している。詳細は、財務省貿易統計の「統計国名符号表」参照: https://www.customs.go.jp/toukei/sankou/dgorder/a1.htm。

を占める。機械類のうち、一般機械ではコンプレッサー、電気機器では発電機が主な輸出品目となっている。また、金属製品については、金額は少額ながら工具や刃物類が多くなっている。

④台湾（表5）

台湾向け輸出では、化学製品と原料別製品で全体の8割を超える。全体の6割を占める原料別製品の主な構成品は紙類及び同製品と鉄鋼である。また、金額は少額であるが、機械類のうち輸送用機器の内容は鉄道用車両となっている。

⑤ベトナム（表6）

ベトナム向け輸出については、化学製品と原料別製品で全体の8割を超えており、原料別製品の紙類及び同製品が輸出額全体の5割を超え、主要品目となっている。

輸出先の上位5カ国・地域向けの主な輸出品目を検証したところ、有機・無機化合物やプラスチックなどの化学製品が共通して多いことが把握された。また、アジア諸国・地域向けについては、原料別製品のうち「紙類及び同製品」が共通の主要輸出品目となっている。

（2）輸入

次に、新潟港の輸入状況について検証する。2018年の新潟港の輸入総額は、5362億1800万円となっており、このうちLNGなどの鉱物性燃料の輸入額は2177億7700万円と全体の4割を占めている。表7に輸入先地理圏と輸入品目・金額を示す。

表4　2018年米国向け主な輸出品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	4	0.0
飲料及びたばこ	125	1.2
原材料	586	5.7
化学製品	1,967	19.0
内、有機・無機化合物	970	
プラスチック	995	
原料別製品	932	9.0
内、金属製品	451	
機械類及び輸送用機器	5,816	56.1
内、一般機械	2,885	
電気機器	2,928	
雑製品	486	4.7
特殊取扱品	445	4.3
合　計	10,361	100.0

表5　2018年台湾向け主な輸出品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	70	0.7
飲料及びたばこ	3	0.0
原材料	47	0.5
化学製品	2,734	26.4
内、有機・無機化合物	974	
プラスチック	872	
原料別製品	6,297	60.8
内、紙類及び同製品	2,277	
鉄鋼	2,762	
機械類及び輸送用機器	812	7.8
内、一般機械	451	
輸送用機器	240	
雑製品	108	1.0
特殊取扱品	285	2.8
合　計	10,356	100.0

表6　2018年ベトナム向け主な輸出品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	55	1.0
原材料	126	2.2
鉱物性燃料	26	0.4
化学製品	129	22.6
内、有機・無機化合物	197	
肥料	110	
原料別製品	3,544	62.1
内、紙類及び同製品	3,118	
鉄鋼	340	
機械類及び輸送用機器	423	7.4
内、一般機械	308	
雑製品	51	0.9
特殊取扱品	193	3.4
合　計	5,708	100.0

表7　2018年新潟港における鉱物性燃料の輸入状況（単位：百万円）

	石油製品	石炭	LNG	LPG	合計
アジア	3,105	130	69,893	112	73,241
中東	0	0	34,189	2,426	36,614
東・西欧	117	185	38,101	0	38,403
北米	3,108	23	0	8,867	11,998
中南米	0	0	2,927	0	2,927
アフリカ	0	0	0	0	0
大洋州	0	0	54,594	0	54,594
合計	6,330	338	199,704	11,405	217,777

鉱物性燃料を除く輸入額は、3184億4100万円となり、相手国の大まかな地理圏別割合を図5で示す。図5の通り、アジアからの輸入が全体の約7割を占め（約2284億1500万円）、次に北米が7%（約224億1800万円）、以下中南米（約191億1500万円）、東・西欧（約152億7600万円）、中東（約149億3300万円）となっている。

次に、2018年の鉱物性燃料を除く輸入における上位10カ国・地域を表8に示す。輸出と同様、中国、韓国、米国が3位まで占めており、5位以下ではタイを始めとする4つの東南アジア諸国・地域が名を連ねている。

新潟港を経由した輸入と対アジア貿易の傾向を把握するため、表8のうち上位3カ国と6位のタイ、8位のマレーシアについて主な輸入品目を検証する。

図5　2018年の新潟港における地理圏別輸入先シェア

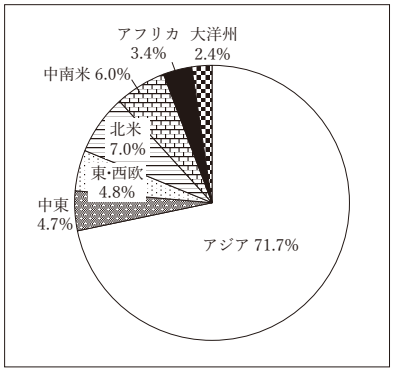


表8　2018年新潟港輸入先上位10カ国・地域（単位：百万円）

順位	国・地域	金　額
1	中華人民共和国	159,285
2	大韓民国	24,540
3	アメリカ合衆国	20,841
4	チリ	12,975
5	南アフリカ共和国	10,628
6	タイ	10,086
7	サウジアラビア	9,992
8	マレーシア	8,579
9	ベトナム	7,387
10	台湾	6,585

①中華人民共和国（表9）

2018年の中国からの鉱物性燃料を除く輸入額（1592億8500万円）は、新潟港全体の輸入額（3184億6400万円）のほぼ5割を占め、多くの原材料・製品の主要な供給元となっている。中でも、金属製品や織物用糸及び繊維製品などの原料別製品が3割強を占めている。また、2割強を占める機械類のうち一般機械で多いのは工作機械を中心とする金属加工機械となっている。

②大韓民国（表10）

韓国からの主な輸入品は化学製品が全体の4割近くを占め、次に原料別製品、機械類及び輸送用機器となっている。新潟港から韓国への輸出（表3参照）と比較すると、金額的には輸出と輸入がほぼ拮抗している。

③アメリカ合衆国（表11）

2018年の米国からの輸入のうち5割を食料品が占めている。そのうち7割強を占めている品目は米（約46億6000万円）ととうもろこし（約24億6100万円）となっている。次に化学製品が3割強と上位の品目となっている。

④タイ（表12）

2018年のタイからの主な輸入品目は、プラスチックなどの化学製品が全体の3割強、次に穀物及び同調整品を主体とする食料品及び動物が2割強となっている。また、穀物及び同調整品のうち米が4割を占めている。

⑤マレーシア（表13）

2018年のマレーシアからの主な輸入品目では、原材料が全体の4割を超え、そのうち木材及び粗鉱物（石及び砂）が主要品目となっている。次に多いのは原料別製品が2割で、中でも木製の合板・ウッドパネルが主要品目である。

上記5カ国の輸入品目を見ると、食料品の輸入が目立つほか、サプライチェーンの中での消費財系製品も大きなウエイトを占めていると推測される。

表9　2018年中国からの主な輸入品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	14,921	9.4
内、穀物及び同調整品	5,776	
果実及び野菜	7,078	
原材料	2,026	1.3
内、粗鉱物	1,034	
動植物性油脂	44	0.0
化学製品	16,550	10.4
内、有機・無機化合物	8,186	
プラスチック	3,452	
原料別製品	53,779	33.8
内、織物用糸及び繊維製品	9,823	
金属製品	26,170	
機械類及び輸送用機器	37,737	23.7
内、一般機械	20,007	
電気機器	13,666	
雑製品	33,470	21.0
内、家具	4,921	
衣類及び同附属品	3,992	
はき物	4,209	
特殊取扱品	758	0.4
合　計	159,285	100.0

表10　2018年韓国からの主な輸入品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	686	2.8
飲料及びたばこ	73	0.3
原材料	24	0.1
化学製品	8,911	36.3
内、有機・無機化合物	3,013	
プラスチック	4,866	
原料別製品	6,558	26.7
内、金属製品	3,555	
卑金属製の家庭用品	2,875	
機械類及び輸送用機器	4,276	17.5
内、一般機械	2,741	
電気機器	1,521	
雑製品	1,257	5.1
内、精密機器類=科学光学機器	233	
写真用・映画用材料	348	
特殊取扱品	2,755	11.2
合　計	24,540	100.0

表11　2018年米国からの主な輸入品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	10,605	50.9
内、魚介類及び同調整品	2,636	
穀物及び同調整品	7,757	
原材料	1,532	7.4
内、粗鉱物	1,082	
化学製品	6,684	32.0
内、無機化合物	3,601	
鉱物性タール及び粗製薬品	2,847	
原料別製品	962	4.6
内、ガラス及び同調整品	826	
機械類及び輸送用機器	554	2.7
内、自動車の部分品	487	
雑製品	331	1.6
特殊取扱品	173	0.8
合　計	20,841	100.0

表12　2018年タイからの主な輸入品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	2,252	22.3
内、穀物及び同調整品	1,229	
飼料	351	
原材料	383	3.8
内、金属鉱及びくず	383	
化学製品	3,176	31.5
内、プラスチック	1,070	
原料別製品	1,115	11.1
内、織物用糸及び繊維製品	426	
金属製品	603	
機械類及び輸送用機器	1,990	19.7
内、一般機械	767	
電気機器	1,180	
雑製品	1,076	10.7
内、プラスチック製品	955	
特殊取扱品	93	0.9
合　計	10,085	100.0

表13　2018年マレーシアからの主な輸入品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	785	9.2
内、コーヒー・茶・ココア・香辛料類	538	
原材料	3,706	43.2
内、木材	1,783	
粗鉱物	1,586	
化学製品	1,185	13.8
内、肥料	776	
原料別製品	1,670	19.5
内、合板・ウッドパネル	800	
鉄鋼	425	
機械類及び輸送用機器	587	6.8
内、輸送用機器	581	
雑製品	540	6.3
特殊取扱品	106	1.2
合　計	8,579	100.0

2－2　直江津港

（1）輸出

2018年の直江津港の輸出額は、462億1900万円で、相手国の大まかな地理圏別割合を図6で示す。図6の通り、アジア向けが全体の7割近くを占め（約310億6500万円）、次に東・西欧向けが2割（約93億9200万円）、北米向けが1割（47億4100万円）となっている。

次に、2018年の輸出における上位10カ国・地域を表14に示す。表14の通りドイツと米国以外は全てアジア諸国・地域が仕向先となっている。

新潟港と同様、直江津港を経由した輸出の傾向を把握するため、表14の上位5カ国向けの主な輸出貨物を検証する。

図6　2018年の直江津港における地理圏別輸出先シェア

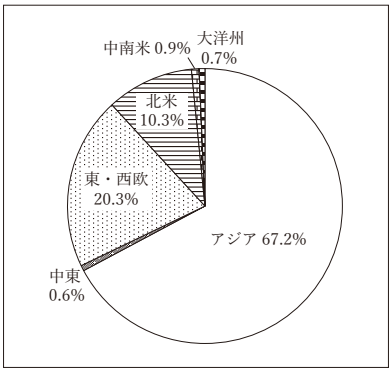


表14　2018年直江津港輸出先上位10カ国地域（単位：百万円）

順位	国・地域	金　額
1	大韓民国	9,812
2	ドイツ	6,403
3	中華人民共和国	6,316
4	アメリカ合衆国	4,635
5	インド	4,126
6	台湾	2,458
7	インドネシア	1,913
8	タイ	1,304
9	ベトナム	1,280
10	フィリピン	1,210

①大韓民国（表15）

2018年の韓国向けの主な輸出品目は、原材料が4割、化学製品が3割弱、機械類が2割強となっている。中でも、ほぼ全額を占めている半導体等製造装置が注目に値する。

表15　2018年韓国向け主な輸出品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
原材料	3,950	40.3
内、生ゴム	1,393	
金属鉱及びくず	2,303	
化学製品	2,702	27.5
内、有機・無機化合物	1,092	
プラスチック	1,167	
原料別製品	783	8.0
内、鉄鋼	500	
機械類及び輸送用機器	2,289	23.3
内、一般機械=半導体製造装置	2,129	
雑製品	88	0.9
合　計	9,812	100.0

②ドイツ（表16）

2018年のドイツ向け主な輸出品目は、ほぼプラスチックを中心とする化学製品となっている。

③中華人民共和国（表17）

2018年の中国向け主な輸出品目は、生ゴムなどの原材料が全体の5割以上を占め、プラスチックを中心とする化学製品が2割と続いている。

④アメリカ合衆国（表18）

2018年の米国向け主な輸出品目は、プラスチックを中心とする化学製品が5割を超え、次に、機械類として建設用・鉱山用機械であるエキスカベーターが3割を占めている。

⑤インド（表19）

2018年のインド向け輸出品目は、2種類であり、プラスチックを主体とする化学製品が全体の6割強、原材料（生ゴム）が4割弱となっている。

直江津港の輸出上位5カ国の主な輸出品目に共通しているのは、品目が比較的限られており、その中でプラスチックを主体とする化学製品が主要品目となっている点である。

表16　2018年ドイツ向け主な輸出品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
化学製品	6,348	99.1
内、プラスチック	6,340	
機械類及び輸送用機器	55	0.9
内、一般機械=エキスカベーター	55	
合　計	6,403	100.0

表17　2018年中国向け主な輸出品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
原材料	3,504	55.5
内、生ゴム	2,305	
金属鉱及びくず	1,137	
化学製品	1,283	20.3
内、プラスチック	1,049	
原料別製品	923	14.6
内、非鉄金属	736	
金属製品	111	
機械類及び輸送用機器	231	3.7
内、一般機械	122	
雑製品	221	3.5
特殊取扱品	152	2.4
合　計	6,314	100.0

表18　2018年米国向け主な輸出品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
化学製品	2,528	54.5
内、プラスチック	2,487	
原料別製品	666	14.4
内、非金属鉱物製品	491	
機械類及び輸送用機器	1,441	31.1
内、一般機械=エキスカベーター	1,441	
合　計	4,635	100.0

表19　2018年インド向け主な輸出品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
原材料	1,558	37.8
内、生ゴム	1,558	
化学製品	2,568	62.2
内、プラスチック	2,432	
合　計	4,126	100.0

（2）輸入

次に直江津港の輸入状況について検証する。2018年の直江津港の輸入総額は、1971億7900万円となっており、このうちLNGなどの鉱物性燃料の輸入額は1585億6300万円で、全体の8割を占めていることから、直江津港はエネルギー輸入に重要な役割を果たしていると言える。表20に地理圏と輸入品目・金額を示す。

鉱物性燃料を除く残り2割の輸入額は、386億1600万円となり、相手国の大まかな地理圏別割合を図7で示す。図7の通

り、アジアからの輸入が全体の3分の2を占め（約255億1200万円）、次に北米が14%（約52億1300万円）、以下東・西欧（約32億7100万円）、中南米（約24億600万円）となっている。

次に、2018年の鉱物性燃料を除く輸入における上位10カ国・地域を表21に示す。上位10カ国・地域のうちアジアが半分の5カ国を占めている。

直江津港を経由した輸入の傾向を把握するため、表21の上位5カ国の主な輸入品目を検証する。

①中華人民共和国（表22）

表22に示す通り、中国からの輸入では、機械類及び輸送用機器及び化学製品で全体の7割を超える主要品目となっている。機械類では建設用・鉱山用機械、コンプレッサー、自動車の部分品、二輪自動車類が多くなっている。

②アメリカ合衆国（表23）

2018年の米国からの主な輸入品はパルプ及び古紙を主体とする原材料、及び化学製品となっている。

③大韓民国（表24）

2018年の韓国からの輸入品は化学製品（プラスチック）が最も多く、全体の5割近くを占め、次いで機械類及び輸送用機器が3割弱を占める。一般機械で目立つのは印刷機械及び製本機械、建設用・鉱山用機械、電気機器などである。

④ロシア（表25）

2018年のロシアからの輸入については、ER+No.149でも記載した通りで、アルミニウム及び同合金を主体とする原料別製品と木材が主な輸入品目となっている。

⑤フィリピン（表26）

2018年のフィリピンからの主な輸入品は、木材及びコルク製品を主体とする原料別製品が全体の7割近くを占め、次いで機械類及び輸送用機器が2割強となっている。

以上のように、直江津港の上位5カ国の輸入品目を見ると、比較的機械類と化学製品、木材系の原材料や原料別製品が多くなっている。

表20　2018年直江津港における鉱物性燃料の輸入状況（単位：百万円）

	石油製品	石炭	LNG	LPG	合計
アジア	557	1,257	14,074	0	15,888
中東	0	0	47,529	2,594	50,123
東・西欧	0	9,706	20,790	0	30,496
北米	0	0	9,112	4,395	13,507
中南米	0	0	3,630	0	3,630
アフリカ	0	0	6,178	0	6,178
大洋州	0	0	38,741	0	38,741
合計	557	10,963	140,054	6,989	158,563

図7　2018年の直江津港における地理圏別輸入シェア

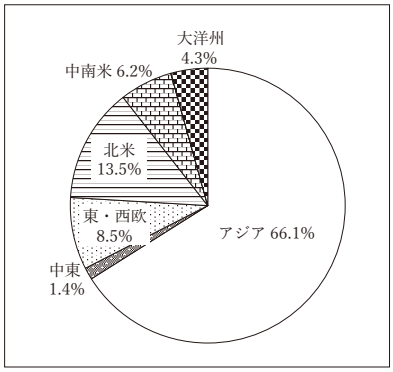


表21　2018年直江津港輸入先上位10カ国・地域（単位：百万円）

順位	国・地域	金　額
1	中華人民共和国	15,640
2	アメリカ合衆国	3,938
3	大韓民国	2,920
4	ロシア	2,030
5	フィリピン	1,952
6	インド	1,648
7	オーストラリア	1,331
8	カナダ	1,276
9	ベトナム	1,218
10	アルゼンチン	1,069

表22　2018年中国からの主な輸入品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	1,107	7.1
内、果実及び野菜	402	
飼料	703	
原材料	1,746	11.2
内、パルプ及び古紙	668	
粗鉱物	736	
化学製品	5,240	33.5
内、無機化合物	4,775	
原料別製品	1,095	7.0
内、織物用糸及び繊維製品	304	
非金属鉱物製品=ガラス	272	
機械類及び輸送用機器	6,012	38.4
内、一般機械	3,278	
輸送用機器	2,110	
雑製品	248	1.6
特殊取扱品	192	1.2
合　計	15,640	100.0

表23　2018年米国からの主な輸入品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	39	1.0
原材料	1,941	49.3
内、パルプ及び古紙	1,820	
化学製品	1,943	49.3
内、有機・無機化合物	1,943	
機械類及び輸送用機器	11	0.3
特殊取扱品	4	0.1
合　計	3,938	100.0

表24　2018年韓国からの主な輸入品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	3	0.1
飲料及びたばこ	9	0.3
原材料	78	2.7
内、生ゴム	51	
化学製品	1,425	48.8
内、プラスチック	1,414	
原料別製品	503	17.2
内、木製品及びコルク製品	109	
非鉄金属	260	
機械類及び輸送用機器	857	29.4
内、一般機械	672	
雑製品	16	0.5
特殊取扱品	29	1.0
合　計	2,920	100.0

表25　2018年ロシアからの主な輸入品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
食料品及び動物	3	0.1
原材料	531	26.2
内、木材	523	
化学製品	2	0.1
原料別製品	1,494	73.6
内、非鉄金属=アルミニウム・同合金	1,364	
合　計	2,030	100.0

表26　2018年フィリピンからの主な輸入品（単位：百万円）

概況品名	金　額	割合（%）
原料別製品	1,344	68.9
内、木材及びコルク製品	1,331	
機械類及び輸送用機器	429	22.0
内、電気機器	388	
雑製品	177	9.1
特殊取扱品	2	0.1
合　計	1,952	100.0

3. 平成30年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査

ER+No.149において、対ロシア輸出入貨物の傾向を検証するため、平成30年度全国コンテナ貨物流動調査（2018年11月国土交通省実施）のデータを引用したが、本稿においても、その趣旨に沿い新潟港、直江津港を経由した新潟県の貿易全体の動向を検証するため、当該調査のデータの一部を引用する。なお、引用に当たっては、シェアの計算や小さな値をその他としてまとめるなど、一部加工している。

3－1　輸出貨物

平成30年度調査において捕捉された輸出貨物全体における新潟県の位置付けを表27で示す。

新潟県で生産された輸出貨物（119350トン）が新潟港及び直江津港を含め、主にどの港から船積みされたかを表28で示す。新潟県で生産された貨物のうち、6割強が新潟港、直江津港から輸出されている。

新潟県で生産された輸出貨物（119350トン）がどの地域に輸出されたかを表29に示す。なお、国土交通省のデータでは、中東もアジアに含めアジア州としているほか、メキシコを北米の範疇に入れ、北アメリカ州とするなど、財務省貿易統計の地理圏と若干の違いがあるが、本項では国土交通省のデータに従う。表29で示す通り、新潟県で生産された貨物の7割以上がアジア地域に輸出されている。

新潟県で生産された輸出貨物（119350トン）の貿易統計品目による分類を表30で示す。表30を見ると、最も多いのが3割近

表27　全国の輸出貨物における新潟県の位置付け（単位：トン）

	貨物量	シェア（%）
全国	7,453,213	100.0
生産地:新潟県	119,350	1.6
船積:新潟港	69,257	0.9
船積:直江津港	8,637	0.1

表28　生産地・新潟県の船積港別貨物量（単位：トン）

港　湾　名	貨物量	シェア（%）
新潟港	67,995	57.0
東京港	20,118	16.9
横浜港	18,316	15.3
直江津港	7,259	6.1
名古屋港	2,168	1.8
伏木富山港	1,494	1.2
神戸港	1,211	1.0
その他（11港）	789	0.7
合　計	119,350	100.0

表29　生産地・新潟県の仕向先別貨物量（単位：トン）

仕　向　先	貨物量	シェア（%）
アジア州	90,316	75.7
ヨーロッパ州	13,159	11.0
北アメリカ州	10,100	8.5
南アメリカ州	2,236	1.9
アフリカ州	2,201	1.8
大洋州	1,337	1.1
不明	1	0.0
合　計	119,350	100.0

表30　生産地・新潟県の輸出貨物の貿易統計品目による分類（単位：トン）

貿易統計品目	貨物量	シェア（%）
食料品及び動物	2,768	2.3
飲料及びたばこ	646	0.5
原材料	21,888	18.3
鉱物性燃料	117	0.1
動植物性油脂	23	0.0
化学製品	26,722	22.4
原料別製品	34,590	29.0
機械類及び輸送用機器	26,452	22.2
雑製品	3,635	3.1
品目不明	2,509	2.1
合　計	119,350	100.0

表31　新潟港・直江津港経由の輸出貨物の仕向先（単位：トン）

仕　向　先	新潟港経由	シェア（%）	直江津港経由	シェア（%）
アジア州	60,676	87.6	7,362	85.2
ヨーロッパ州	2,615	3.8	526	6.1
北アメリカ州	1,824	2.6	689	8.0
南アメリカ州	1,473	2.2	48	0.6
アフリカ州	2,087	3.0	0	0.0
大洋州	582	0.8	12	0.1
合　計	69,257	100.0	8,637	100.0

表32　新潟港・直江津港経由の輸出貨物の貿易統計品目による分類（単位：トン）

貿易統計品目	新潟港経由	シェア（%）	直江津港経由	シェア（%）
食料品及び動物	822	1.2	0	0.0
飲料及びたばこ	142	0.2	0	0.0
原材料	16,531	23.8	2,027	23.5
鉱物性燃料	0	0.0	0	0.0
動植物性油脂	23	0.0	0	0.0
化学製品	16,880	24.4	3,506	40.6
原料別製品	23,056	33.3	1,351	15.6
機械類及び輸送用機器	9,472	13.7	1,492	17.3
雑製品	903	1.3	159	1.8
品目不明	1,428	2.1	102	1.2
合　計	69,257	100.0	8,637	100.0

くを占める原材料製品であり、このうち紙類・及び同製品が9割を占めている。

新潟港、直江津港から輸出された貨物の仕向先を表31に示す。表27で記載した通り、新潟港から輸出された貨物量は69257トン、直江津港は8637トンである。新潟港、直江津港ともアジア地域向けの輸出が8割以上となっている。

新潟港、直江津港から輸出された貨物の貿易統計品目による分類を表32に示す。新潟港では原料別製品、直江津港では化学製品が最も多い輸出品目となっている。

3－2　輸入貨物

輸出貨物と同様、平成30年度調査において補足された輸入貨物全体における新潟県の位置付けを表33で示す。

新潟県で消費される輸入貨物（169980トン）が新潟港及び直江津港を含め、主にどの港に船卸しされたかを表34で示す。新潟県で消費される貨物のうち9割近くが新潟港、直江津港から輸入されている。

表34　消費地・新潟県の船卸港別貨物量（単位：トン）

港　湾　名	貨物量	シェア（%）
新潟港	134,410	79.1
直江津港	15,216	9.0
東京港	13,467	7.9
横浜港	3,643	2.1
広島港	893	0.5
大阪港	836	0.5
名古屋港	598	0.4
その他（9港）	917	0.5
合　計	169,980	100.0

表33　全国の輸入貨物における新潟県の位置付け（単位：トン）

	貨物量	シェア（%）
全国	12,030,468	100.0
消費地:新潟県	169,980	1.4
船積:新潟港	148,411	1.2
船積:直江津港	37,730	0.3

新潟県で消費される貨物がどの地域を原産地として輸入されたかを表35に示す。なお、地域の分け方については、輸出と同様、国土交通省のデータに従う。表35で示す通り、アジア地域を原産地とする貨物が8割を超えている。

新潟県を消費地とする輸入貨物（169980トン）の貿易統計品目による分類を表36で示す。輸入貨物のうち最も多いのが原料別製品で、金属製品、織物用糸・繊維製品、木製品などが主要品目となっている。

新潟港、直江津港に輸入された貨物の原産地域を表37に示す。上述（表33）した通り、新潟港に輸入された貨物量は148411トン、直江津港は37730トンである。貨物の原産地を見ると、新潟港、直江津港ともアジア地域が9割近くとなっている。

新潟港、直江津港に輸入された貨物の貿易統計品目による分類を表38に示す。新潟港では原料別製品の割合が3割弱、直江津港では食料品の割合が5割弱と最も多い品目となっている。

表35　消費地・新潟県の原産地別貨物量（単位：トン）

仕　向　先	貨物量	シェア（%）
アジア州	143,922	84.6
ヨーロッパ州	11,565	6.8
北アメリカ州	11,415	6.7
南アメリカ州	2,302	1.4
アフリカ州	1	0.0
大洋州	775	0.5
不明	0	0.0
合　計	169,980	100.0

表36　消費地・新潟県の輸入貨物の貿易統計品目による分類（単位：トン）

貿易統計品目	貨物量	シェア（%）
食料品及び動物	25,821	15.2
飲料及びたばこ	186	0.1
原材料	17,307	10.2
鉱物性燃料	1,233	0.7
動植物性油脂	17	0.0
化学製品	21,058	12.4
原料別製品	44,179	26.0
機械類及び輸送用機器	24,107	14.2
雑製品	30,892	18.2
品目不明	5,180	3.0
合　計	169,980	100.0

表37　新潟港・直江津港経由の輸入貨物の原産地域（単位：トン）

原産地域	新潟港経由	シェア（%）	直江津港経由	シェア（%）
アジア州	130,797	88.1	32,895	87.2
ヨーロッパ州	8,857	6.0	1,855	4.9
北アメリカ州	7,458	5.0	2,396	6.4
南アメリカ州	1,299	0.9	559	1.5
アフリカ州	0	0.0	25	0.0
大洋州	0	0.0	0	0.0
合　計	148,411	100.0	37,730	100.0

表38　新潟港・直江津港経由の輸入貨物の貿易統計品目による分類（単位：トン）

貿易統計品目	新潟港経由	シェア（%）	直江津港経由	シェア（%）
食料品及び動物	22,108	14.9	18,374	48.7
飲料及びたばこ	153	0.1	0	0.0
原材料	12,756	8.6	4,033	10.7
鉱物性燃料	1,191	0.8	20	0.0
動植物性油脂	42	0.0	0	0.0
化学製品	19,306	13.0	4,871	12.9
原料別製品	42,594	28.7	5,309	14.1
機械類及び輸送用機器	17,046	11.5	4,644	12.3
雑製品	28,722	19.4	228	0.6
品目不明	4,493	3.0	251	0.7
合　計	148,411	100.0	37,730	100.0

以上、2018年11月の1カ月間の輸出入コンテナ貨物流動調査の一部であるが、第2項の財務省貿易統計による新潟港、直江津港の輸出入状況と比較検証すると、両港とも輸出入の主要相手地域はアジア、取り分け地理的にも近い中国や韓国であること、また、アジア地域との輸出入においては主に地元港湾を利用していることが読み取れる。

4. 2019年の新潟港、直江津港の輸出入の状況

最後に、2019年の新潟港、直江津港の輸出入状況を検証する。但し、細かな貨物内容等の検証は2018年分で行ったので割愛し、ここでは2018年との大まかな比較を行うこととする。

4－1　新潟港

1-2節で記述したように、2019年の新潟港輸出額は約1030億円で、対前年比約180億円・15%の減少となっている。2019年の輸出先上位10カ国・地域を表39に示す。

輸出先上位10カ国の輸出額で比較すると、2018年の上位10カ国輸出額合計は約1002億円、2019年では約840億円で、上位10カ国だけで162億円の減少となっている。2018年では、中国が265億円で1位であったが、2019年では202億円（マイナス63億円・16%減）で2位に後退している。輸出の減少要因については、更に詳細な分析が必要となるが、米中貿易摩擦の影響を受けた中国経済の停滞も間接的な要因と推測される。一方、2019年に1位となっている韓国への輸出額は約250億円で、2018年の約260億円より10億円（約4%）しか減少しておらず、過去最悪と言われている日韓関係悪化の影響がまだ出ていないように思われる。

表39　2019年新潟港輸出先上位10カ国・地域（単位：百万円）

順位	国・地域	金　額
1	大韓民国	25,042
2	中華人民共和国	20,230
3	アメリカ合衆国	9,177
4	台湾	9,038
5	タイ	4,516
6	ベトナム	3,981
7	香港	3,662
8	インド	3,203
9	ロシア	3,075
10	マレーシア	2,147

表40　2019年新潟港輸入先上位10カ国・地域（単位：百万円）

順位	国・地域	金　額
1	中華人民共和国	156,534
2	大韓民国	23,381
3	アメリカ合衆国	22,118
4	チリ	14,809
5	南アフリカ共和国	10,912
6	タイ	10,164
7	ベトナム	9,847
8	マレーシア	8,439
9	ロシア	7,701
10	ドイツ	7,237

次に、2019年の新潟港の輸入総額は約5186億円で、総額ベースでは対前年比約176億円・3.3%の減少となっている。このうち鉱物性燃料（約2001億円）を除いた輸入額を比較すると、2019年は約3185億円で、2018年の約3184億円より若干の増となっている。即ち、2019年の輸入額減少は専ら鉱物性燃料の輸入減少によるものと言える。2019年の鉱物性燃料を除く輸入先上位10カ国・地域を表40に示す。

2019年の輸入先上位10カ国・地域を見ると、1位から6位までは2018年と変わっていない。また、上位10カ国・地域の輸入額合計も2018年は約2709億円、2019年は約2711億円と若干の増で、輸入については安定した状況と言える。

4－2　直江津港

2019年の直江津港輸出額は約439億円で、対前年比約23億円・5%の小幅な減少となっている。2019年の輸出先上位10カ国・地域を表41に示す。

2019年の輸出先上位10カ国・地域を見

表41　2019年直江津港輸出先上位10カ国・地域（単位：百万円）

順位	国・地域	金　額
1	大韓民国	9,747
2	ドイツ	6,275
3	中華人民共和国	5,420
4	アメリカ合衆国	4,376
5	インド	3,813
6	台湾	2,651
7	インドネシア	2,145
8	ベトナム	1,210
9	ベルギー	1,078
10	オランダ	1,005

表42　2019年直江津港輸入先上位10カ国・地域（単位：百万円）

順位	国・地域	金　額
1	中華人民共和国	17,943
2	アメリカ合衆国	3,885
3	大韓民国	3,153
4	インド	2,290
5	フィリピン	2,158
6	オーストラリア	1,696
7	ベトナム	1,678
8	アルゼンチン	1,070
9	トリニダード・トバゴ	1,064
10	インドネシア	1,063

ると、1位から7位までは2018年と変動はない。また、上位10カ国・地域の輸出額合計も2018年は395億円、2019年は377億円と約4%の減少に留まっている。

次に、2019年の直江津港の輸入総額は約1936億円で、総額ベースで対前年比35億円・1.8%と若干減少している。このうち鉱物性燃料（約1529億円）を除いた輸入額を比較すると、2019年は約407億円で、2018年の約386億円より約21億円・5%増となっている。2019年の鉱物性燃料を除く輸入先10カ国・地域を表42に示す。

2019年の上位10カ国・地域の輸入額合計は約360億円で、2018年の約321億円より39億円・12%上回っている。中でも、中国からの輸入が約23億円増えていることが目立っている。

5. 終わりに

これまで、財務省貿易統計及び平成30年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査を基に、新潟港、直江津港を経由した貿易動向について検証してきたが、やはり地理的にも近い中国及び韓国を中心にアジア諸国・地域との輸出入がデータの上からも新潟県の生産・消費活動に重要な役割を果たしていることは明らかである。

一方、現在、米中貿易摩擦や日韓関係悪化に加え、本年に入り、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大による経済活動の顕著な落ち込みが国際貿易にも大きな影響を与えており、新潟県経済にとってもしばらくはマイナスの影響が続くと思われる。こうした中、今後も本稿で記述したような貿易統計のフォロー・データの提供は必要と考えており、ポストコロナのグローバル・サプライ・チェーンのあり方も含め、新潟県企業の事業展開やその際の本県港湾の利用に少しでも参考になれば幸いである。

なお、新潟県では、新潟港、直江津港における輸出入コンテナ貨物の利用促進を図るため、荷主や物流事業者等に対する補助事業を実施している。詳細は新潟県港湾振興課のホームページを参照頂きたい。（https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kowanshinko/）